横浜栄共済病院内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院である横浜栄共済病院を基幹施設として，神奈川県横浜市南部医療圏・近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て神奈川県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として神奈川県全域を支える内科専門医の育成を行います.

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です．内科の専門研修では，幅広い疾患群を順次，経験してゆくことによって，内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします.

使命【整備基準 2】

1) 神奈川県横浜市南部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，（1）高い倫理観を持ち，（2）最新の標準的医療を実践し，（3）安全な医療を心がけ，（4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1) 本プログラムは，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院である横浜栄共済病院を基幹施設として，奈川県横浜市南部医療圏・近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間になります．

2) 横浜栄共済病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．

3) 基幹施設である横浜栄共済病院は，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であります．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

4) 基幹施設である横浜栄共済病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 74 別表 1「横浜栄共済病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

5) 横浜栄共済病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

6) 基幹施設である横浜栄共済病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（別表 1「横浜栄共済病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，（1）高い倫理観を持ち，（2）最新の標準的医療を実践し，（3）安全な医療を心がけ，（4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2) 内科系救急医療の専門医

3）病院での総合内科（Generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

横浜栄共済病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，神奈川県横浜市南部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，横浜栄共済病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 4 名とします．

1) 横浜栄共済病院内科専攻医は 3 学年併せて 9 名（2026 年度）で 1 学年 3～4 名の実績があります．
2) 国家公務員共済組合連合会管轄公立病院として雇用人員数に一定の制限があるので，募集定員の大幅増は現実性に乏しいです．
3) 剖検体数は 2024 年度 2 体，2025 年度 5 体です．

表．横浜栄共済病院診療科別診療実績（年度）

2025 年度実績	入院延患者数	外来延患者数
消化器内科	22,031	16,037
循環器内科	11,642	12,580
糖尿病・内分泌内科	8,088	16,400
腎臓内科	13,493	14,346
呼吸器内科	7,564	8,820
神経内科	9,939	9,011
救急科	3,592	1,857
合計	76,349	79,051

4) 代謝，内分泌，血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 4 名に対し十分な症例を経験可能です．
5) 9 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.19～20「横浜栄共済病院内科専門研修施設群」参照）．
6) 1 学年 4 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です．

7) 専攻医 2 年目に研修する連携施設・特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県の医療機関で構成しています.
8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は達成可能です.

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します．さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】（P.74 別表 1「横浜栄共済病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します.

○専門研修（専攻医）1 年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます.
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる

360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います.

○専門研修（専攻医）2 年:

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します.
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します.
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします.

○専門研修（専攻医）3 年:

- 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します.
- 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します.
- 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，内科専門医ボードによる査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します.
- 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます.
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります.

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

横浜栄共済病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

2） 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種

の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～5）参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

① 内科専攻医は，担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．
② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます．
③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくても週 1 回，1 年以上担当医として経験を積みます．
④ 救命救急センターの内科外来（平日夕方）で内科領域の救急診療の経験を積みます．
⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます．
⑥ 要に応じて，Subspecialty 診療科検査を担当します．

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

（1）内科領域の救急対応，（2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，（3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，（4）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，（5）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します．

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2025 年度実績 5 回）
※ 内科専攻医は年に 5 回以上受講します．
③ CPC（基幹施設 2025 年度実績 3 回）
④ 研修施設群合同カンファレンス（2026 年度開催予定）
⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：循環器症例検討会，心不全医療連携研究会，糖尿病内分泌談話会，腎疾患地域談話会，呼吸器懇話会，消化器疾患地域談話会，救急症例検討会；2025 年度実績 12 回）
⑥ JMECC 受講（基幹施設：年 1 回開催予定）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは
※ 2 年までに 1 回受講します．
⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します．

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5） 研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します．

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．
・専攻医による逆評価を入力して記録します．
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の内科専門医ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います．
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します．
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

横浜栄共済病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.19〜20「横浜栄共済病院内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します．

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．

横浜栄共済病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする．

② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidencebasedmedicine）.
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
② 後輩専攻医の指導を行う.
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.

を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

横浜栄共済病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院，特別連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.
※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します.
② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.
④ 内科学に通じる基礎研究を行います.

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います.

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，横浜栄共済病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.

横浜栄共済病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記 1）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.

① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢

⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．横浜栄共済病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県の医療機関から構成されています.

横浜栄共済病院は，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.

連携施設，特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県の医療機関で構成しています.

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，横浜栄共済病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

横浜栄共済病院内科専門研修施設群(P. 19～20)は，神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県内の医療機関から構成しています．最も距離が離れている国際医療福祉大学成田病院は千葉県内にあるが，横浜栄共済病院から電車を利用して，2 時間程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです.

10.　地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

横浜栄共済病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

横浜栄共済病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

11.　内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

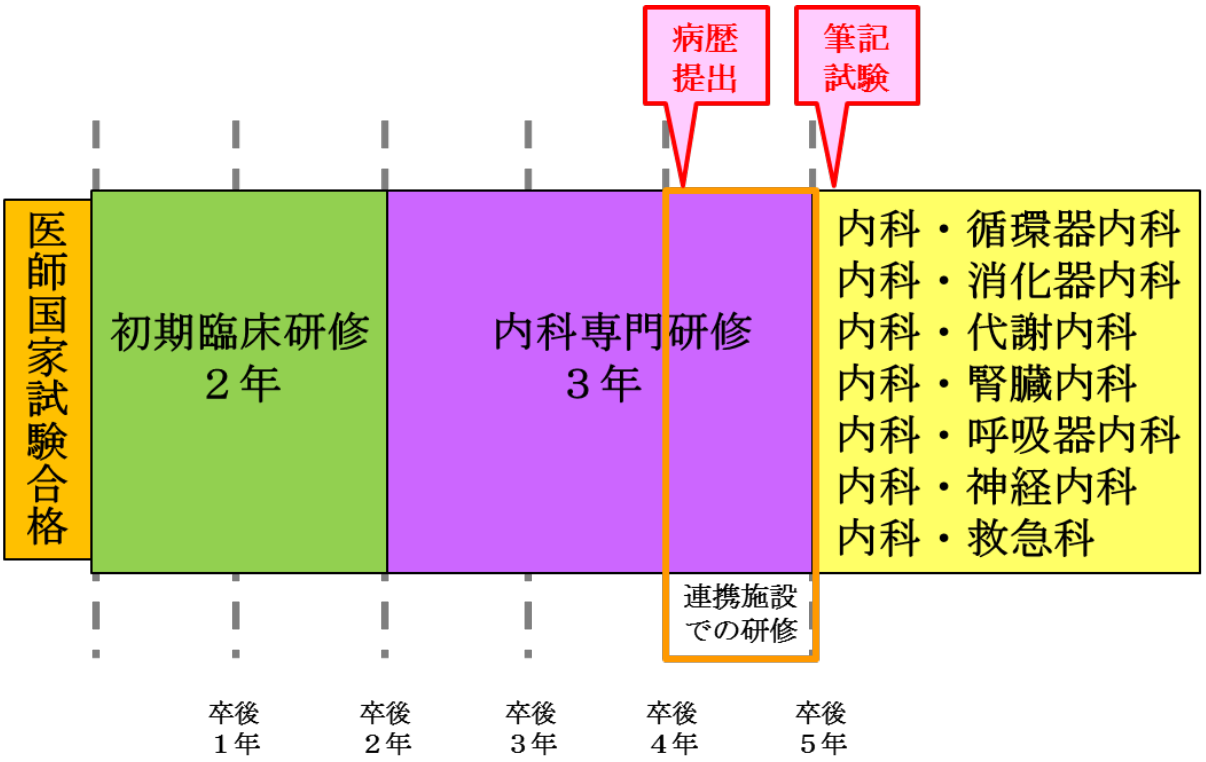


図１．横浜栄共済病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である横浜栄共済病院内科で，専門研修（専攻医）１年目，２年目に２年間の専門研修を行います．

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修科を調整し決定します．病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間，連携施設，特別連携施設で研修をします（図 1）．なお，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）．

12.　専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～20～22】

(1) 横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）の役割

・横浜栄共済病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います．

・横浜栄共済病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します．

・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡しま

す.

・年に複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します．

・横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）は，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称:2026 年度以降設置予定）もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います．

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します．

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が横浜栄共済病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます．

・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います．

・専攻医は，1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します．

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します．

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います．

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記

載能力を形成的に深化させます.

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに横浜栄共済病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します.

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～vi)の修了を確認します.

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済み（P.74 別表 1「横浜栄共済病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講 vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2) 横浜栄共済病院内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に横浜栄共済病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．なお，「横浜栄共済病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】（P.66）と「横浜栄共済病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】（P.72）と別に示します.

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

（P.64「横浜栄共済病院内科専門研修管理員会」参照）

1) 横浜栄共済病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者（診療部長），プログラム管理者（ともに内科指導医），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科長）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.64 横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）．横浜栄共済病院内科専門研修管理委員会の事務局を，横浜栄共済病院臨床教育

研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）におきます.

ii）横浜栄共済病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 1 回開催する横浜栄共済病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します.

基幹施設，連携施設ともに，期日までに，横浜栄共済病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います.

① 前年度の診療実績
a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d) 1 か月あたり内科外来患者数，
e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数
a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，
d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③ 前年度の学術活動
a） 学会発表，b)論文発表

④ 施設状況
a） 施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催.

⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します.

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います.

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.

専門研修（専攻医）1年目，2年目は基幹施設である横浜栄共済病院の就業環境に，専門研修（専攻医）3 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき，就業します（P.19～20「横浜栄共済病院内科専門研修施設群」参照）.

基幹施設である横浜栄共済病院の整備状況：

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.

・国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されています.
・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤しています.
・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各１名おり,セクハラに関する相談を受け付けています.
・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.19～20「横浜栄共済病院内科専門施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，横浜栄共済病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会，横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・ 担当指導医，施設の内科研修委員会，横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，横浜栄共済病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して横浜栄共済病院内科専門研修プログラムを評価します.

・ 担当指導医，各施設の内科研修委員会，横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます．

3）研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）と横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会は，横浜栄共済病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて横浜栄共済病院内科専門研修プログラムの改良を行います．

横浜栄共済病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します．

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，毎年 7 月から website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，規定日までに横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）の website の横浜栄共済病院医師募集要項（横浜栄共済病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，翌年の横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します．

(問い合わせ先)
横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称:2026 年度以降設置予定）
下記連絡先は，横浜栄共済病院　総務課
E-mail:syomu@yokohamasakae.jp　　HP: http://www.yokohamasakae.kkr.or.jp/

横浜栄共済病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います．

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて横浜栄共済病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから横浜栄共済病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から横浜栄共済病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに横浜栄共済病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません．

横浜栄共済病院内科専門研修施設群
（地方型一般病院のモデルプログラム）
研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）

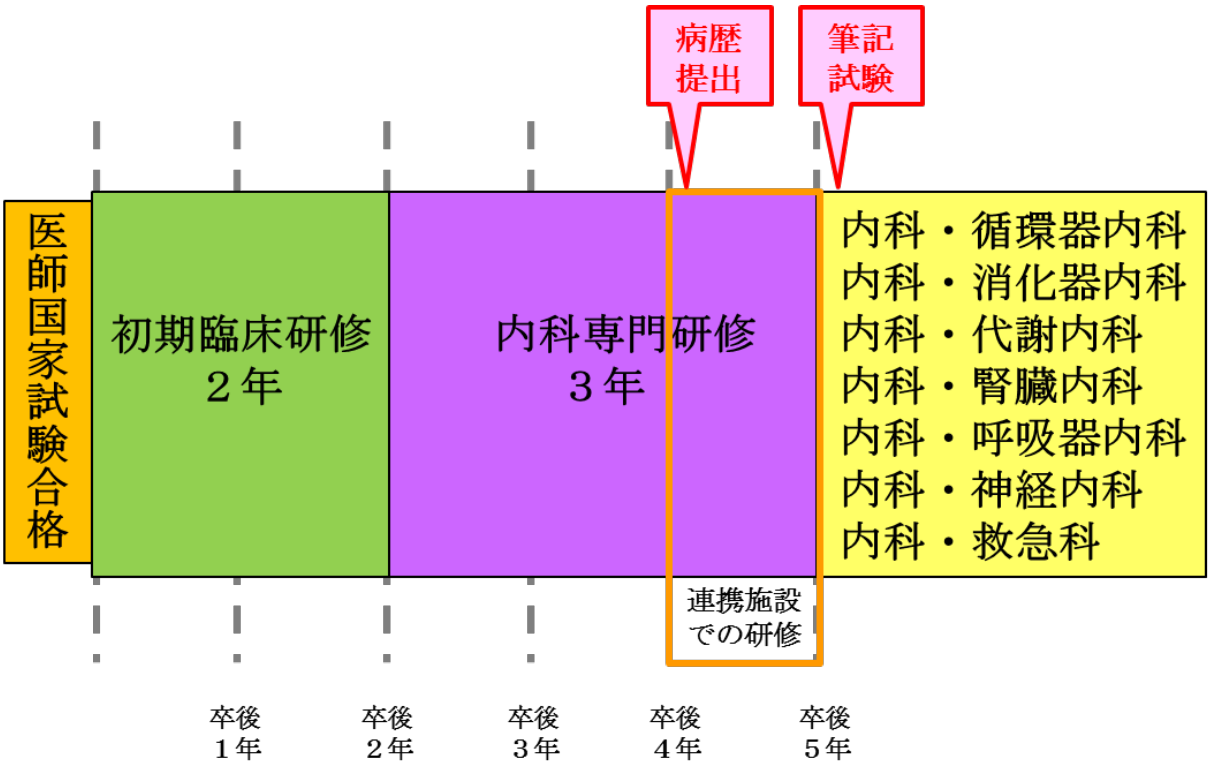


図１．横浜栄共済病院内科専門研修プログラム（概念図）

横浜栄共済病院内科専門研修施設群研修施設

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	横浜栄共済病院	430	170	7	14	12	5
連携施設	横浜市立大学附属病院	656	156	8	80	42	31
連携施設	横浜市立大学附属市民総合医療センター	676	184	10	42	24	22
連携施設	聖マリアンナ医科大学病院	1,007	458	9	104	62	24
連携施設	横浜南共済病院	663	209	8	15	8	19
連携施設	横浜労災病院	650	237	12	32	13	13
連携施設	横浜市南部病院	500	197	9	12	18	15
連携施設	茅ヶ崎市立病院	401	184	8	17	11	10
連携施設	横須賀市立総合医療センター	450	175	9	12	22	9
連携施設	新百合ヶ丘総合病院	563	110	15	31	28	3
連携施設	横須賀市立市民病院	339	210	10	4	6	1
連携施設	大船中央病院	292	90	8	7	5	5
連携施設	藤沢湘南台病院	330	60	7	4	5	1
連携施設	額田記念病院	58	58	1	3	2	0
連携施設	立川病院	450	150	9	23	18	9
連携施設	杏林大学医学部附属病院	1,055	339	12	118	57	24
連携施設	町田市民病院	447	166	8	12	9	4
連携施設	大森赤十字病院	340	172	6	18	15	12
連携施設	国際医療福祉大学三田病院	291	65	7	11	15	10
連携施設	国際医療福祉大学成田病院	662	300	11	34	34	21
連携施設	国際医療福祉大学熱海病院	269	88	11	8	7	9
連携施設	東京都立広尾病院	408	125	10	22	15	11

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
横浜栄共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜市立大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜市立大学附属市民総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
聖マリアンナ医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜南共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜市南部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
茅ヶ崎市立病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
横須賀市立総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新百合ヶ丘総合病院	○	○	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	○
横須賀市立市民病院	○	○	△	×	×	○	×	△	○	△	○	○	○
大船中央病院	○	○	△	△	△	○	○	△	△	△	×	○	○
藤沢湘南台病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
額田記念病院	×	×	○	△	○	×	×	×	×	×	×	×	×
立川病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
杏林大学医学部附属病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
町田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
大森赤十字病院	△	○	○	△	△	○	○	△	○	△	△	○	○
国際医療福祉大学三田病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○
国際医療福祉大学成田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国際医療福祉大学熱海病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都立広尾病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階に評価してください.
(◯:研修できる, △:時に経験できる, ×:ほとんど経験できない)

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．横浜栄共済病院内科専門研修施設群研修施設は，神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県内の医療機関から構成されています．

横浜栄共済病院は，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設・特別連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に，神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県の医療機関で構成しています．

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．

地域基幹病院では，横浜栄共済病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します．
- 病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間，連携施設・特別連携施設で研修をします（図 1）．なお，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）．

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都， 千葉県，静岡県内の医療機関から構成しています．最も距離が離れている国際医療福祉大学成田病院は千葉県内にあるが，横浜栄共済病院から電車を利用して，2 時間程度の移動時間であり，移動や連携に支障をきたす可能性は低いです．

2)専門研修連携施設

横浜栄共済病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤しています. ·院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各１名おり，セクハラに関する相談を受け付けています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は14名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者，プログラム管理者（ともに内科指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研修センター（仮称：2026年度以降予定）を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025年度開催予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025年度実績3回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（基幹施設：循環器症例検討会，心不全医療連携研究会，糖尿病内分泌談話会，腎疾患地域談話会，呼吸器懇話会，消化器疾患地域談話会，救急症例検討会：2025年度実績12回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年１回開催予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2024年度実績2体，2025年度5体）を行っています.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，インターネット環境などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025年度実績12回）しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025年度実績12回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	岩城　卓 【内科専攻医へのメッセージ】 　横浜栄共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり，協力病院と連携して内科専門研修を行い，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで，医療安全を重視しつつ，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医14名，日本内科学会総合内科専門医16名 日本消化器病学会消化器専門医６名，日本循環器学会循環器専門医６名， 日本内分泌学会専門医２名，日本糖尿病学会専門医２名， 日本腎臓病学会専門医２名，日本呼吸器学会呼吸器専門医４名， 日本神経学会神経内科専門医２名，日本救急医学会救急科専門医２名，ほか
外来・入院患者数	外来患者15,884名（1ヶ月平均延数）　入院患者11,156名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本動脈硬化学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定 日本認知症学会教育施設 日本病理学会研修登録施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

2)専門研修連携施設

1. 横浜市立大学附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ・ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 81 名在籍しています（下記）. ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 117 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンス（2021 年度実績 1 回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ CPC を定期的に開催（2021 年度実績 19～20 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 地域参加型のカンファレンス（2021 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 21 演題）をしています.
指導責任者	前田愼 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し，神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 81 名，日本内科学会総合内科専門医 47 名　日本消化器病学会消化器専門医 18 名，日本循環器学会循環器専門医 10 名，　日本内分泌学会専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 5 名，　日本腎臓病学会専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 6 名，日本神経学会神経内科専門医 10 名，　日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本リウマチ学会専門医 5 名，　日本感染症学会専門医 2 名，日本救急医学会救急科専門医 5 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者　11,655 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　4,565 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院　日本消化器病学会認定施設　日本呼吸器学会認定施設　日本糖尿病学会認定教育施設　日本腎臓学会研修施設　日本アレルギー学会認定教育施設　日本消化器内視鏡学会認定指導施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本老年医学会認定施設　日本肝臓学会認定施設　日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設　日本透析医学会認定医制度認定施設　日本血液学会認定研修施設　日本大腸肛門病学会専門医修練施設　日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設　日本神経学会専門医制度認定教育施設　日本脳卒中学会認定研修教育病院　日本呼吸器内視鏡学会認定施設　日本神経学会専門医研修施設　日本内科学会認定専門医研修施設　日本老年医学会教育研修施設　日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設　日本東洋医学会研修施設　ICD/両室ペーシング植え込み認定施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設　日本肥満学会認定肥満症専門病院　日本感染症学会認定研修施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本高血圧学会高血圧専門医認定施設　ステントグラフト実施施設　日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　日本認知症学会教育施設　日本心血管インターベンション治療学会研修施設など

2. 横浜市立大学附属市民総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・横浜市立大学専攻医又は指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ・ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内の院内保育所を利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 29 名在籍しています（下記）. ・ 内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会について集合研修や e-learning の利用により定期開催（2021 年度実績 医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファレンス（2021 年度実績 1 回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ CPC を定期的に開催（2021 年度実績 17 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・ 地域参加型のカンファレンス（2021 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	平和　伸仁 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し，神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです. また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 29 名，日本内科学会総合内科専門医 29 名　日本消化器病学会消化器専門医 22 名，日本肝臓学会専門医 8 名，日本循環器学会循環器専門医 14 名，　日本内分泌学会専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 3 名，　日本腎臓病学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，　日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 4 名，　日本アレルギー学会専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 2 名，　日本感染症学会専門医 3 名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 18 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者　38,038 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　16,856 名（1 ヶ月平均） ＜2021 年度実績＞
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本救急医学会指導医指定施設　救急科専門医指定施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設　日本心血管インターベンション学会認定研修施設　日本消化器病学会認定施設　日本大腸肛門病学会認定施設　日本肝臓学会認定施設　日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設　日本内科学会認定医制度教育病院　日本呼吸器学会認定施設　日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設　日本アレルギー学会認定教育施設　日本血液学会認定血液研修施設　日本臨床腫瘍学会認定研修施設　非血縁者間骨髄採取認定施設　日本がん治療認定医機構認定研修施設　日本腎臓学会研修施設　日本透析医学会認定施設　日本糖尿病学会認定教育施設　内分泌代謝科認定教育施設　日本東洋医学会指定研修施設　日本神経学会専門医制度認定教育施設　日本リウマチ学会教育施設　日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設　呼吸療法専門医研修施設　日本アフェレシス学会認定施設　日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設　ＮＳＴ稼働施設　日本救急撮影技師認定機構実地研修施設　日本緩和医療学会認定研修施設　日本感染症学会研修施設　日本高血圧学会専門医認定施設　日本急性血液浄化学会認定施設 など

3. 聖マリアンナ医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·聖マリアンナ医科大学病院の専攻医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·近隣に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 104 名在籍しています. ・研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域および多職種参加型の 9 内科合同カンファレンスを定期的に参画し，common disease や様々な症例を学ぶ機会を設けています. ・CPC を定期的に開催し，内科・病理との幅広いディスカッションに参加する機会が設けられています. ・JMECC を主催しており，優先的に専攻医が受講することができます。 ・特別連携施設での研修では，電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（平均 24 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室，インターネット環境を整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会（月 1 回）を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 題以上の学会発表をしています.（2018 年度実績 18 演題）
指導責任者	氏名：安田　宏 【内科専攻医へのメッセージ】 東京と隣接した地域に位置する，地域密着型特定機能病院です．2022 年末に新病院が竣工予定です．年間 6000 台以上の救急車の応需があり，三次急までの様々な救急疾患を経験することができます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 104 名，日本内科学会総合内科専門医 62 名，日本消化器病学会消化器専門医 21 名，日本循環器学会循環器専門医 40 名，日本内分泌学会専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 7 名，日本腎臓病学会専門医 9 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名，日本血液学会血液専門医 7 名，日本神経学会神経内科専門医 22 名，日本アレルギー学会専門医（内科）5 名，日本リウマチ学会専門医 14 名，日本老年医学会専門医 10 名，日本救急医学会救急科専門医 14 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者：50147 名（1 ヶ月平均延数）　入院患者：26,038 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院，日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関（画像診断・IVR 部門，核医学部門，放射線治療部門），日本救急医学会救急科専門医・指導医指定施設，日本麻酔科学会日本病理学会病理専門医制度研修認定施設Ａ，日本消化器病学会専門医制度認定施設，日本血液学会認定血液研修施設，日本核医学会専門医教育病院，日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設，日本糖尿病学会認定教育施設，日本腎臓学会研修施設，日本透析医学会専門医制度認定施設，日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設，日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設（小児科/ 皮膚科/ ﾘｳﾏﾁ・膠原病・ｱﾚﾙｷﾞｰ内科），日本呼吸器学会認定施設，日本神経学会専門医制度教育施設，日本ﾘｳﾏﾁ学会教育施設，日本呼吸器内視鏡学会認定施設，日本ペインクリニック学会指定研修施設，日本臨床薬理学会専門医制度研修施設，日本老年医学会認定施設，日本消化器内視鏡学会指導施設，日本肝臓学会認定施設，日本脈管学会認定研修施設，日本大腸肛門病学会認定施設，日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設，日本放射線腫瘍学会認定施設，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設，日本臨床腫瘍学会認定研修施設，日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設，日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院，日本集中治療医学会専門医研修施設，日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設認定，日本感染症学会研修施設認定，日本がん治療認定医機構認定研修施設，日本老年精神医学会専門医制度認定施設，日本緩和医療学会　認定研修施設，日本東洋医学会指定研修施設，日本心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会認定研修施設，日本カプセル内視鏡学会指導施設，日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設証，日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部・腹部ステントグラフト実施施設，日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医制度研修施設，日本脳神経血管内治療学会　研修施設，日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設，日本病院総合診療医学会認定施設，日本てんかん学会認定研修施設

4. 横浜南共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である. ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している. ・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各１名おり，セクハラに関する相談を受け付けている. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されている. ・敷地内に院内保育所が整備されている.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 25 名在籍している（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019～20 年度実績　医療倫理 1 回，安全 3 回，感染対策 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績　金沢区 CPC　1 回，消化器疾患　内科・外科・病理カンファレンス　1 回　神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会　1 回　呼吸器疾患医療連携セミナー　2 回など　各科および複数科合同で計 10 回程度）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績 4 演題）をしている.
指導責任者	小泉晴美 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜南共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり，横浜栄病院を基幹とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで，医療安全を重視しつつ，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名，日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名，日本循環器学会循環器専門医 9 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本腎臓病学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本血液学会血液専門医 3 名，日本神経学会神経内科専門医 4 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本リウマチ学会専門医 2 名， 日本感染症学会専門医 0 名，日本救急医学会救急科専門医 3 名，ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　11,122 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　1,403 名（1 ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．稼働
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

5. 横浜労災病院

認定基準 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・労働者健康安全機構嘱託職員として労務環境が保障されています. ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課），産業医がおります. ・ハラスメントについては，相談員（男女各１名）を置き，職員の相談に対応しており，必要に応じに職員相談委員会を開催する体制が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室を整備しています. ・敷地内に院内保育所を整備しています.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 32 名在籍しています. ･医師臨床研修管理委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医にも受講を義務付けます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 5 演題の学会発表をしています.
指導責任者	責任医師名　永瀬　肇 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜労災病院は独立行政法人労働者健康安全機構が設置，運営する病院であり，労災疾病の診療，研究を行うとともに，横浜市北東部中核医療施設として救急診療，高度医療，がん診療，小児医療，産科医療における大きな役割を担っています。内科系のすべての領域において初診から診断，治療に至るまでの高い専門性を有する診療が行われており，また安全，倫理，感染，内科救急などの研修機会も整っています。そして，内科門研修のために何よりも重要なことは，より多くの症例を優れた指導体制の下に経験することであり，当院は専攻医が充実した専門研修ができる環境を用意しています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名，日本内科学会専門医 13 名 日本消化器病学会専門医 3 名，日本消化器内視鏡学会専門医 3 名，日本循環器学会専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 4 名， 日本肝臓学会専門医 2 名，日本呼吸器学会専門医 4 名， 日本腎臓学会専門医 2 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 4 名，日本神経学会専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 15,708 名（内科系診療科のみの 1 ヶ月平均） 入院患者 6,687 名（内科系診療科のみの 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例をすべて経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療，最新医療，臨床研究を体験しつつ内科専門医に求められる患者中心の標準治療を習得し，地域医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定脳卒中教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー専門医教育施設 日本がん治療認定研修施設 日本腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本心身医学会研修診療施設 日本心療内科学会研修施設（基幹研修施設） 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 日本カプセル内視鏡学会認定施設 など

6. 横浜市南部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・済生会横浜市南部病院シニアレジデント医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康管理室）があります. ・ハラスメント委員会が済生会横浜市南部病院に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 12 名在籍しています（下記）. ・内科専門研修プログラム委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績　医療倫理　1 回（複数回開催），医療安全 7 回（各複数回開催），感染対策 11 回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス（2022 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2019～20 年度実績 15 回，2020 年度 2 回（COVID-19～20 影響））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2021 年度実績　地域連携研修会 6 回などを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します. ・特別連携施設（港南台病院）の専門研修では，電話や週 1 回の済生会横浜市南部病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. ･専門研修に必要な剖検を行っています.　(2019～20 年度 15 体)
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究が可能な図書室などが整っています. ･医療倫理委員会を設置し開催されています. ･臨床教育センター（臨床教育センター運営委員会年 4 回）や治験事務局（治験審査委員会年 12 回）が設置されています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定.　(2020 年度日本内科学会発表総数：3 演題，学会発表数 内科系学会の発表数：28 演題)
指導責任者	川名一朗 【内科専攻医へのメッセージ】 　済生会横浜市南部病院は横浜南部地域の基幹病院であり，急性期病院として専門的，先進的医療，救急医療における地域の中心的役割を果たしている．地域医療の充実とともに質の高い内科医の育成のため内科専門医制度プログラムの基幹施設としてまた藤沢市民病院をはじめとした，各基幹施設とのプログラムの連携施設として内科専門研修を行います.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　12 名，日本内科学会総合内科専門医　18 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名， 日本糖尿病学会専門医 3 名，内分泌学会専門医 1 名，アレルギー学会専門医 1 名， 日本腎臓病学会専門医 3 名，消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本感染症学会専門医 2 名，リウマチ学会専門医　2 名，ほか
外来・入院　患者数	外来患者　930.5 名（1 日平均）　　入院患者　　365.8 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器病学会認定施設 日本アレルギー学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本環境感染学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本甲状腺学会専門医施設 日本心血管インタベーション学会研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床腫瘍学会研修施設 など

7. 茅ヶ崎市立病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・茅ヶ崎市会計年度任用職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課健康衛生担当）があります. ・セクシュアル・ハラスメント苦情処理委員会，ハラスメント対策委員会が茅ヶ崎市役所に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が17名在籍しています（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績　医療倫理　1回，医療安全2回，感染対策2回：いずれもe-ラーニングで実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPCを定期的に開催（2021年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2021年度実績　茅ヶ崎内科医会症例検討会0回，救急症例検討会3回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，神経，内分泌，代謝，感染，アレルギー，膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2021年度実績3演題）を予定しています.
指導責任者	栗山 仁 診療部長 【内科専攻医へのメッセージ】 茅ヶ崎市立病院は神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり，内科専門研修プログラムの基幹施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　17名，日本内科学会総合内科専門医　15名 日本消化器病学会消化器専門医5名，日本循環器学会循環器専門医2名， 日本糖尿病学会糖尿病専門医4名，日本内分泌学会内分泌･代謝専門医4名， 日本腎臓病学会専門医3名，日本透析医学会専門医1名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名，日本神経学会神経内科専門医1名， 日本肝臓学会認定肝臓専門医3名，日本アレルギー学会専門医（内科）2名， 日本リウマチ学会専門医2名，ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　23,739名（1ヶ月平均）　　入院患者　　7,749名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 一次脳卒中センター（PSC） 日本肝臓学会関連施設 日本肝臓学会研修施設 高血圧研修施設 日本がん治療認定医機構研修施設 など

8. 横須賀市立総合医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である. ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処する健康管理室がある. ・ハラスメント委員会が整備されている. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能である.
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が11名在籍しています. (2023年度) ・初期および専門医研修管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度実績　医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPCを定期的に開催（2023年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2023年実績7回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2023年度開催実績1回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域のうち，総合内科，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，血液，アレルギー，膠原病，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2023年度実績1演題）をしています. ・臨床研究に必要な図書室，電子ジャーナル等を整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的（2023年実績12回）を開催しています.
指導責任者	・岩澤　孝昌 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立総合医療センターは地域医療機関や救急隊との良好な連携により効率の良い入院治療に重点を置いた高次医療を提供しています．また，人材の育成や地域寮の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修終了後に質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医11名，日本内科学会総合内科専門医11名 日本消化器病学会消化器科専門医6名，日本循環器学会循環器専門医8名 日本腎臓病学会専門医1名，日本呼吸器学会認定専門医2名 日本救急医学会救急科専門医6名，ほか　※2023年度
外来・入院　患者数	外来患者　484.9名（1ヶ月平均）　　入院患者　262.0名（1ヶ月平均）※2023年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根差した医療，病診連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器学会専門医認定制度研修施設（連携施設） 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設Ｂ 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本病院総合医診療学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　ほか

9. 新百合ヶ丘総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·新百合ヶ丘総合病院内科研修医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレス，ハラスメントに適切に対処する部署（総務課）があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·病院に関連する保育施設があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科指導医は30名在籍しています. （2024年4月現在） ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器・肝臓病研究所所長），プログラム管理者（消化器内科部長）が，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年計5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群の一部で合同カンファレンスを定期的に主催して，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2023年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（新百合ヶ丘病診連携の会；年2回,，川崎北部 心臓血管病フォーラム；年1回,，新百合ヶ丘循環器フォーラム；年1回， 新百合ヶ丘イブニングカンファレンス；年1回,，新百合ヶ丘がんセミナー；年1回など）を定期的に開催していますが，専攻医に受講のための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年1回開催を予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. （上記） ·70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても56以上の疾患群）について研修できます.（上記） ·専門研修に必要な剖検（2022年度実績3体，2023年度3体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，カンファレンスルームなどを整備しています. ·研修医専用の研修医室があります. ·倫理委員会を設置し，年1-2回開催しています. ·治験管理室を設置しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に2023年度に計1演題の学会発表をしています. 内科専攻医の内科系学会での発表数は6演題です.

指導責任者	篠崎　倫哉 【内科専攻医へのメッセージ】 　新百合ヶ丘総合病院は，神奈川県川崎北部医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に診療します．診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 30 名，日本内科学会総合内科専門医/内科専門医 28 名 日本消化器病学会専門医 12 名，日本循環器学会専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 6 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本血液学会血液専門医 3 名， 日本神経学会専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医（内科）2 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	2023 年 総外来患者 334,127 名，総入院患者 187,127 名（のべ）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本認知症学会教育施設 　など

10. 横須賀市立市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹研修指定病院である. ・研修に必要な図書室と院内インターネット環境がある. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある. ・ハラスメント委員会が横須賀市立市民病院に整備されている. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている. ・敷地内に院内保育所があり，0歳児からの保育を含め利用可能である.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 10 名在籍している. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 3 回，医療安全 11 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・研修群の合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野うち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている. Subspeciality 関連学会での発表も積極的に行っていく.
指導責任者	道端　信貴 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立市民病院は，三浦横須賀地区の中核病院として，三浦半島の西南部の医療を担っています．市中病院として，内科全科に専門医が在籍し，豊富なコモンディジーズを経験することができます．また，病病連携や病診連携等を通して，地域医療を学ぶことも目的としています. 単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名（うち日本内科学会総合内科専門医 8 名）， 日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本循環器学会循環器専門医 2 名, 日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 2 名，日本呼吸器学呼吸器専門医 2 名, 日本血液学会血液専門医 1 名，日本神経学会神経専門医 1 名, 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，日本リウマチ学会専門医 1 名, 日本感染症学会専門医 1 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 14,396 名（1 ヶ月平均），入院患者 421 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携など

療・診療連携	も経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本腎臓学会専門医研修施設 日本透析医学会認定制度教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本血液学会専門医制度血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会専門医制度認定教育施設 日本精神神経学会専門医制度研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 など

11. 大船中央病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である. ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・社会医療法人財団互恵会大船中央病院の職員として労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している. ・院内にセクシャルハラスメント相談員がおり，セクハラに関する相談を受け付けている. ・敷地内に院内保育所が整備されている.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が7名在籍している.（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014年度実績　医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・CPC を定期的に開催（2014 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち消化器，腎臓，呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している.
指導責任者	須藤　博 【内科専攻医へのメッセージ】 内科はすべての臨床医学の基本であり，将来どのサブスペシャリティに進むにしても臨床研修の２年とその後３年の間に基本的な知識・診療態度・思考過程を身につけることは重要である．各種の検査が駆使される現在においても，適切に行われた病歴聴取と身体診察のみで70-80%は診断にいたることができるとされている．しかし病歴聴取は単なる情報収集ではなく，実は interactive で高度な skill を要するアートである．臨床研修２年とその後の３年で病歴聴取と身体診察を充分に身に付けることは到底不可能である．これらは生涯にわたって研鑽すべきことであるが，学び続けようとする「姿勢を学ぶ」ことは研修期間であっても充分可能である．当院の内科では，基本的な病歴聴取・身体診察でどこまで診断に迫れるか，そのための思考過程を理解し，学ぶ姿勢(life-long self learning) を身に付けることを大きな目標としたい.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医７名，日本内科学会総合内科専門医５名 日本消化器病学会消化器専門医５名，日本循環器学会循環器専門医０名， 日本内分泌学会専門医１名，日本糖尿病学会専門医０名， 日本腎臓病学会専門医１名，日本呼吸器学会呼吸器専門医２名，ほか
外来・入院患者数	外来患者　5,049　名（1ヶ月平均）　　入院患者　19～202　名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	総合内科・消化器内科・呼吸器内科を中心とした疾患.
経験できる技術・技能	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の common diseases。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会　認定医制度における教育関連病院認定 日本消化器病学会　認定施設 日本消化器内視鏡学会　指導施設 日本消化管学会　胃腸科指導施設 日本血液学会　血液研修施設 日本呼吸器学会　認定施設 など

12. 藤沢湘南台病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹研修指定病院. ・藤沢湘南台病院常勤医としての労務環境が保証されています. ・研修に必要な図書室と院内インターネット環境があります. ・健康管理部（健診は、同一法人ライフメディカル健診プラザ病院より徒歩 8 分）があります．ストレスチェックを毎年実施．また労働安全衛生委員会があり，職場環境の改善維持確認を行っています. ・ハラスメント委員会設置されています. ・女医専用の部屋　当直室、シャワー等があります. ・病院専用の保育室が院外にあります．病院より徒歩3分.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 4 名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置される臨床研修委員会と連携します. ・研修群の合同カンファレンスには出席を義務付けそのための時間的余裕も与えます. ・CPC を毎年開催しております．専攻医受講を義務付けそのための時間的余裕も与えます. ・定期的に行われる医療安全講習・感染対策講習に出席を義務としてそのための時間的余裕も与えます. ・内科系倫理委員会の時にできるだけ出席をお願いして、そのための時間的余裕も与えます. ・内科領域 13 分野のうち専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	13 領域にて専門研修が可能な症例数を診察します. 2022 年内科系剖検数 2 体 2023 年内科系剖検数 1 体 2024 年内科系剖検数 1 件
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室,インターネット環境などを整備しています. ･倫理委員会を設置し,定期的に開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会の学会発表しております.
指導責任者	松田　玲圭 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南東部医療圏で藤沢市北部に位置しております．藤沢市北部，綾瀬市，大和市，横浜市泉区の患者を中心に地域医療の充実とともに内科医の育成のため，プログラム連携して内科専門医研修を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名,日本内科学会総合内科専門医 5 名,日本消化器病学会消化器専門医 5 名,日本消化器内視鏡学会専門医,日本循環器学会循環器専門医 1 名,日本内分泌学会専門医 1 名,日本糖尿病学会専門医 1 名,日本腎臓病学会専門医 1 名,日本神経学会神経内科専門医 1 名,日本救急医学会救急科専門医 1 名,ほか
外来・入院患者数	外来内科患者 2,692 名　病院全体 10,967 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者名 1,691 名　病院全体 6,761 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域,70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を,実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく,超高齢社会に対応した地域に根ざした医療,病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 CVIT 研修施設群連携施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 IBD 指導施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定教育施 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定証 日本救急医学会救急科専門医指定施設

13. 額田記念病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境がある. ・医療法人財団 額田記念会 額田記念病院の職員として労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が週2日程度来院している. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されている.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が2名在籍している.（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014年度実績　医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・基幹病院が定期的に開催する研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・基幹病院が開催する定期的なCPC　(2014年度実績5回）を専攻医に参加を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・基幹病院が開催する定期的な地域参加型のカンファレンス（2014年度実績　計20回程度）を，専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与える.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症，救急を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を目指します.
指導責任者	水野　治 【内科専攻医へのメッセージ】 額田記念病院は神奈川県の鎌倉市・逗子市地域の療養型病院であり，基幹病院と連携して内科専門研修を行い，地域医療に貢献できる内科専門医の育成を行います．主担当医として，地域の急性期病院からの患者を受け入れ，医療安全を重視しつつ，社会的背景・療養環境を包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会循環器専門医1名, 日本内分泌学会専門医1名，日本糖尿病学会専門医1名, 内分泌代謝科指導医1名ほか
外来・入院患者数	外来患者　1383　名（1ヶ月平均）　　入院患者　15　名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	療養型病院で症例数は多くありませんが，入院患者として研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，20疾患群程度の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	連携病院として地域に根ざした医療，病診・病病連携を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	なし

14. 立川病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・立川病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ・ハラスメント委員会が立川病院に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が23名在籍しています（下記）. ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績　日本専門医機構認定共通講習会2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える予定です. ・CPCを定期的に開催（2021年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に．JMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます（2021年度JMECC開催実績1回）.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 専門研修に必要な剖検（2019年度実績16体，2020年度実績8体）を行っています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2021年度実績 9演題）をしています. ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに，英文・和文論文の筆頭著者として執筆する機会があり，学術的な指導を受けることができます（2020年度内科系学会発表数41演題，英文論文10編・和文論文7編）. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.
指導責任者	森谷　和徳（内科専門研修プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は東京都北多摩西部二次医療圏における最大規模の高度急性期総合病院です．2017年には新病院棟が完成しました．新病院棟は「機能性」「安全性」「快適性」「環境への配慮」などのコンセプトのもと設計されています. 地域医療支援病院，東京都災害拠点病院，東京都地域救急医療センター，東京都認知症疾患医療センター，東京都地域周産期母子医療センター，東京都エイズ拠点病院，第二種感染症指定病院，東京都がん診療連携協力病院，難病医療協力医療機関，東京都CCUネットワーク加盟機関などの指定を受けており，「大学病院に勝るとも劣らない医療水準」を目指しています．人の一生に関わるトータルケアを実践している当院は，「赤ちゃんからお年寄りまで」をモットーにしています. 全人的医療を実現するべく，あらゆる疾患に対応できるように，研修医のみならずスタッフ医師も日々学んでいく姿勢を大事にしています．内科スタッフが協力して一人の患者さんを診療する風通しの良い体制を誇りとしています. 特に得意としている疾患は次の通りです. □ 神経内科：　脳卒中，認知症（東京都認知症疾患医療センター），パーキンソン病，多発性硬化症，重症筋無力症 □ 循環器内科：　急性心筋梗塞や狭心症のカテーテル治療（東京都CCUネットワーク加盟機関），糖尿病患者等の虚血性心疾患スクリーニング，不整脈 □ 消化器内科：　大腸ポリープ（切除），炎症性腸疾患，肝臓病 □ 腎臓内科：ＣＫＤ，検尿異常から末期腎不全まで

	□ 内分泌・代謝内科： 糖尿病，糖尿病合併妊娠 □ 血液内科： 悪性リンパ腫，白血病，多発性骨髄腫，白血球増多，血小板減少 □ 呼吸器内科： 肺がん，肺炎，喘息・COPD，間質性肺炎，非結核性抗酸菌症，睡眠時無呼吸症候群
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 23 名，日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本肝臓病学会肝臓専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 3 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本腎臓学会腎臓専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医 1 名，日本感染症学会感染症専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	内科全体で，外来患者 4,515 名（1 ヶ月平均），新入院患者 213 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	地域医療支援病院に指定されており，高度急性期医療だけでなく，北多摩西部保健医療圏の伝統と実績と信頼のある中核病院として，地域に根ざした医療，病診・病病連携を経験できます．東京都の委託事業として，脳卒中医療連携推進協議会（事務局），地域拠点型認知症疾患医療センター，糖尿病医療連携協議会（事務局），東京都 CCU ネットワーク加盟機関で地域連携事業に主導的役割を果たしています．周産期母子医療センター，MPU(精神科身体合併症病棟)も設置されており，産科，小児科，精神神経科関連の医療連携も多数経験することができます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会専門医認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか

15. 杏林大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·杏林大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理質）があります. ·ハラスメント委員会が杏林大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育,病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は74名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に複数回開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2014年度実績6回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·JMECC 受講（杏林大学医学部附属病院で開催実績：2015 年度開催実績 1 回）プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,総合内科っを,消化器,循環器,内分泌,代謝,腎臓,呼吸器,血液,神経,アレルギー,膠原病,高齢医学,感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。. ·専門研修に必要な剖検（2014年度実績26体，2013年度29体）を行っています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	·国内では,地方会や総会で,積極的に学会発表をしています. また，海外の学会でも,学会発表を行いますｓ。
指導責任者	第3内科学（消化器内科）教授　久松　理一 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和 45 年 8 月に設置した杏林大学医学部附属病院は,東京西部・三多摩地区の大学病院として高度な医療のセンター的な役割を果たしており,平成6年4月に厚生省から特定機能病院として承認されています.高度救命救急センター（3次救急医療）,総合周産期母子医療センター,がんセンター,脳卒中センター,透析センター,もの忘れセンター等に加え,救急初期診療チームが1・2次救急に24時間対応チームとして活動しています. 東京都三鷹市に位置する基幹施設として,東京都西部医療圏（多摩,武蔵野）・近隣医療圏にある連携施設と協力し内科専門研修を経て東京都西部医療圏の医療事情を理解し,地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練します. さらに内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はより高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して,複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 31 名，日本内科学会総合内科専門医 27 名（内科学会総合専門医は,すべて内科指導医も取得） 日本消化器病学会消化器専門医18名,日本循環器学会循環器専門医20名, 日本内分泌学会専門医4名,日本糖尿病学会専門医7名, 日本腎臓病学会専門医15名,日本呼吸器学会呼吸器専門医14名, 日本血液学会血液専門医2名,日本神経学会神経内科専門医11名, 日本アレルギー学会専門医2名,日本リウマチ学会専門医16名, 日本老年病専門医16名,ほか

外来・入院患者数	外来患者 56,331 名（1 ヶ月平均）　入院患者 24,741 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	本プログラムは, 専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に, 豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で, 内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて, 標準的かつ全人的な内科医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.
経験できる地域医療・診療連携	連携病院が地域においてどのうような役割を果たしているかを経験するために, 原則として 1 年間, 立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって, 内科専門医に求められる役割を実践します.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会教育認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 など

16. 町田市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・町田市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員健康推進室担当）があります. ・「【町田市民病院職員】ハラスメント防止のためのガイドライン」に基づき，ハラスメント防止委員会を整備予定です. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 12 名在籍しています. （下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（2021 年度実績　救急外来患者症例検討会 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，神経，内分泌，代謝，感染，アレルギー，膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 3 演題）を予定しています. 各 subspeciality の学会に年一回の発表を予定しています. （2021 年度実績学会発表 3 演題 論文掲載 3 本）
指導責任者	和泉元喜 【内科専攻医へのメッセージ】 町田市民病院は東京都多摩南部医療圏の中心的な急性期病院であり，横浜市大附属病院などを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名，日本内科学会総合内科専門医 9 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本消化器病学会消化器病専門医 4 名， 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名，日本肝臓学会肝臓専門医 1 名， 日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名， 日本内分泌学会内分泌代謝（内科）専門医 1 名， 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名，日本透析医学会透析専門医 2 名， 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名， ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　21,783 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　9,726 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会専門医認定研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本透析学会専門医教育関連施設, 日本糖尿病学会認定教育施設 など

17. 大森赤十字病院

1)専攻医の環境	・初期臨床研修基幹型研修指定病院である.. ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・大森赤十字病院　常勤医師として労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある. ・ハラスメント防止に対する規程及び委員会が整備されている. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室、，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている.
2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与える. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与える.
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 12 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 11 体，2017 年度実績 14 体）を行っています.
4)学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ・臨床研究部門を設置し，臨床研究発表会や講演会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績　内科系学会 27 演題）をしています.
内科専攻医へのメッセージ	竹内　壯介 【内科専攻医へのメッセージ】 大森赤十字病院は地域に密着した急性期病院で，近隣の施設と連携した内科専門研修を行います．いわゆる common disease はもちろん，重篤な疾患でも地域で治療を完結できるようにレベルの高い診療を目指しております．当院の特徴として他職種とのチーム医療を基本としており，医師はじめ多くのスタッフでチーム大森を形成しています．私たちは，専攻医の皆様が，「将来当院で研修を行ったことを自慢できるような病院」を目指して日々研鑽を積んでいます．是非，私たちのチームの一員になってともに学んでいきましょう.
指導医数 （常勤医）	指導医が 18 名在籍している. 日本内科学会総合内科専門医，日本呼吸器学会専門医，日本循環器学会専門医，日本心血管インターベンション治療学会専門医，日本超音波医学会認定超音波専門医・指導医，日本消化器病学会専門医・指導医，日本消化器内視鏡学会専門医・指導医，日本消化管学会胃腸科専門医・指導医，日本血液学会認定指導医・専門医， 日本腎臓学会認定腎臓専門医・指導医，日本透析医学会専門医・指導医，　日本高血圧学会専門医・指導医，日本神経学会専門医・指導医，日本頭痛学会専門医，日本プライマリケア連合学会指導医，日本糖尿病学会専門医・指導医，日本老年医学会専門医・指導医　ほか.
外来・入院患者数	外来患者　693.7 名/日　入院患者　307.1 名/日

経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患別項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら、幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診，病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 など

18. 国際医療福祉大学三田病院

1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，専攻医の就業環境を整えることを重視します. 専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は公認心理士によるカウンセリングを行います. 専攻医は採用時に労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けることとなります. プログラム管理委員会では各 施設における労働環境，労働安全，勤務に関して報告され，これらの事項について総括的に評価 します.
2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医が 11 名在籍しています． (2024 年 4 月現在) ・基幹プログラムに対する研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理しています. ・内科専攻医連絡会を開催し，新専門医制度化で専門医試験を合格した先輩医師から資格取得に向けたアドバイスやフォローを行います. ・内科系にて剖検が実施される場合，病理医と共に専攻医にも剖検に参加していただき，専門医試験の受験に必要な剖検数を学ばせます. ・JMECC を定期的にグループ内にて開催し，内科救急に必要な処置等を学ぶことも可能です.
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 12 分野（消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，脳神経，アレルギー，膠原病，感染症及び救急）で定常的な専門研修を可能としています．基幹施設にて不足している領域を経験できるよう，各診療科をローテーションすることも可能です.
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表をしています. また，内科サブスペシャリティ領域の学会でも発表を行うことも出来ます.
内科専攻医へのメッセージ	合屋 雅彦（循環器内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 国際医療福祉大学三田病院内科では，専攻医が希望するサブスペシャルティ領域を重点的に研修するコースや，内科の領域を偏り無く学ぶ事を目的としたコースを，充実した 3 年間のスケジュールからなるプログラムを提供しています．この研修期間で内科学という学問を通し，社会人としての常識・モラルを持った，才能豊かな内科専門医となることを目標としています. 地域医療を経験するため，連携施設（国際医療福祉大学成田病院，国際医療福祉大学病院，国際医療福祉大学熱海病院，国際医療福祉大学塩谷病院，国際医療福祉大学市川病院，山王病院など）での研修期間を設けています. 充実した各科教育スタッフの指導により，幅広い総合内科的視点を基盤とした，優秀な内科専門医の育成ができると考えています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名，日本内科学会総合内科専門医 15 名， 日本消化器病学会専門医　4 名，日本肝臓学会専門医　1 名， 日本循環器学会専門医　8 名，日本内分泌学会専門医　2 名， 日本糖尿病学会専門医　2 名，日本腎臓病学会専門医　0 名， 日本呼吸器学会専門医　4 名，日本血液学会専門医　1 名， 日本神経学会専門医　3 名，日本アレルギー学会専門医　1 名， 日本リウマチ学会専門医　1 名，日本感染症学会専門医 0 名， 日本老年医学会専門医 0 名，ほか.
JMECC　開催	2023 年度実績　0 回　※グループ病院 PG での開催時に参加可.

外来・入院患者数	2023 年度実績　外来患者　256,684 名　※外来延べ患者数 入院患者　75,788 名　※入院延べ患者数、退院除く.
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて. 研修手帳（疾患別項目表）にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験できます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら，幅広く経験することが出来ます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，新型コロナウイルス感染症の治療や地域に根ざした医療，病診，疾病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設

19. 国際医療福祉大学成田病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·国際医療福祉大学成田病院専攻医として労務環境が保障されています. ·安全衛生委員会がメンタルストレスに適切に対処します. ·ハラスメント防止委員会が院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が34名在籍しています. (下記) ·後期研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, プログラム管理委員会が連携施設群との連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催 (2023年度実績医療倫理1回, 医療安全2回, 感染対策2回) し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス (予定) を定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催 (2023年度12回) し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち, 全分野 (総合内科, 消化器, 循環器, 内分泌, 代謝, 腎臓, 呼吸器, 血液, 神経, アレルギー, 膠原病, 感染症および救急) で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し, 定期的に開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	脳神経内科部長 村井弘之
指導医数& 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医34名, 日本内科学会総合内科専門医32名 日本消化器病学会消化器専門医5名、日本循環器学会循環器専門医9名、日本腎臓病学会専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医4名、日本血液学会血液専門医5名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本アレルギー学会専門医2名、日本リウマチ学会専門医2名、日本糖尿病学会専門医3名、日本内分泌学会専門医1名、日本感染症学会感染症専門医3名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者7,917名 (1ヶ月平均)　内科入院患者293名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある13領域, 70疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.

認定施設 （内科系）	日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 ほか

20. 国際医療福祉大学熱海病院

認定基準 【整備基準23】 1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・後期臨床研修医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する組織（安全衛生委員会）があります. ・ハラスメント委員会が病院内に設置されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があります.
認定基準 【整備基準23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が9名在籍しています.（下記参照） ・研修管理委員会を設置して，病院内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018年度実績，医療安全3回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPCを定期的に開催（2018年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・JMECCを定期的に開催（2019～20年度実績1回）し，専攻医に受講できるための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，血液，膠原病を除く，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています.
プログラム責任者	重政朝彦【内科専攻医へのメッセージ】 国際医療福祉大学は4つの附属病院を有し，それぞれの地域で人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．新しい専門医制度の内容に即して初期臨床研修修了後に院内内科系診療科が協力・連携するだけでなく，都市部や病院隣接の異なる医療圏での研修を通して質の高い内科医を育成するプログラムで行っていきます．また単に内科医を養成するだけでなく，全人的な医療を目指し，チーム医療・チームケアの体制のもと医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，これからの医療を担える医師を育成することを目指しています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医9名，日本内科学会総合内科専門医8名， 日本消化器病学会消化器病専門医4名，日本肝臓学会肝臓専門医2名， 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医4名，日本高血圧学会専門医1名， 日本老年医学会専門医1名，日本抗加齢医学会専門医1名， 日本循環器学会循環器専門医2名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医2名， 日本糖尿病学会糖尿病専門医1名，日本腎臓学会腎臓専門医2名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医3名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医2名， 日本神経学会神経内科専門医2名，日本脳卒中学会脳卒中専門医2名， 日本アレルギー学会アレルギー専門医1名
外来・入院患者数	外来患者　16,755名（1ヶ月平均）　　入院患者　　6630名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち血液（3 疾患群）と膠原病（2疾患群）を除く65疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携などが経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本老年医学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機講認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 など

21. 東京都立広尾病院

認定基準【整備基準24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。（総務課担当職員） ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・病院建て替えに伴い院内保育所が現在休止している。
認定基準【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が15名在籍している。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理（1回）・医療安全（１１回）・感染対策（2回）講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPCを定期的に開催(4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2024年度：1回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
認定基準【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 また、剖検例についても定常的に専門研修可能である。（2024年度：11症例）
定基準【整備基準24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を予定している。内科系学会の発表総数は52演題。卒後３～６年目の内科専門研修（旧制度含む）中の医師が筆頭の演題は13演題。
指導責任者	田島　真人 【内科専攻医へのメッセージ】　広尾病院は東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害に係る研修も可能です。さらに東京都島嶼部（大島、八丈島をはじめとする島々）の後方支援病院であり、島嶼医療に関わる研修を行うことも可能です。また2023年度より病院総合診療科が新設され、同科の研修も行うことが可能です。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医22名 日本内科学会総合内科専門医15名 日本消化器病学会消化器専門医7名 日本消化器内視鏡学会認定専門医5名 日本肝臓学会認定肝臓専門医6名 日本循環器学会循環器専門医8名 日本呼吸器学会呼吸器専門医4名 日本腎臓病学会専門医3名 日本神経学会認定神経内科専門医　3名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医3名 日本糖尿病学会糖尿病専門医　3名　　ほか （2024年度末時点）
外来・入院患者数	外来患者 47,690名

	入院患者　2,960 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢者医療に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、東京都島嶼部の後方病院として島嶼医療機関との連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本神経学会准教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本救急医学会指導医専門医指定施設設　ほか

横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2026 年 4 月現在）

横浜栄共済病院

岩城　卓（プログラム統括責任者，循環器分野責任者）
山田　昌代（副プログラム統括責任者，内分泌・代謝分野責任者）
押川　仁（研修委員会委員長，腎臓分野責任者）
酒井　英嗣（消化器内科分野責任者）
三浦　健次（呼吸器内科分野責任者）
仲野　達（神経内科分野責任者）
森田　友可里（事務局）

連携施設担当委員（各施設 1 名）

横浜市立大学附属病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
聖マリアンナ医科大学病院	横浜南共済病院
横浜労災病院	横浜市南部病院
茅ヶ崎市立病院	横須賀市立総合医療センター
新百合ヶ丘総合病院	横須賀市立市民病院
大船中央病院	藤沢湘南台病院
額田記念病院立川病院	杏林大学医学部附属病院
町田市民病院	大森赤十字病院
国際医療福祉大学三田病院	国際医療福祉大学成田病院
国際福祉医療大学熱海病院	東京都立広尾病院

オブザーバー

内科専攻医代表 1 年生代表　1 名
内科専攻医代表 2 年生代表　1 名
内科専攻医代表 3 年生代表　1 名

整備基準 44 に対応

横浜栄共済病院内科専門研修プログラム
専攻医研修マニュアル

1）専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

横浜栄共済病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．

そして，神奈川県横浜市南部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

横浜栄共済病院内科専門研修プログラム終了後には，横浜栄共済病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく，専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する，または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です．

2）専門研修の期間

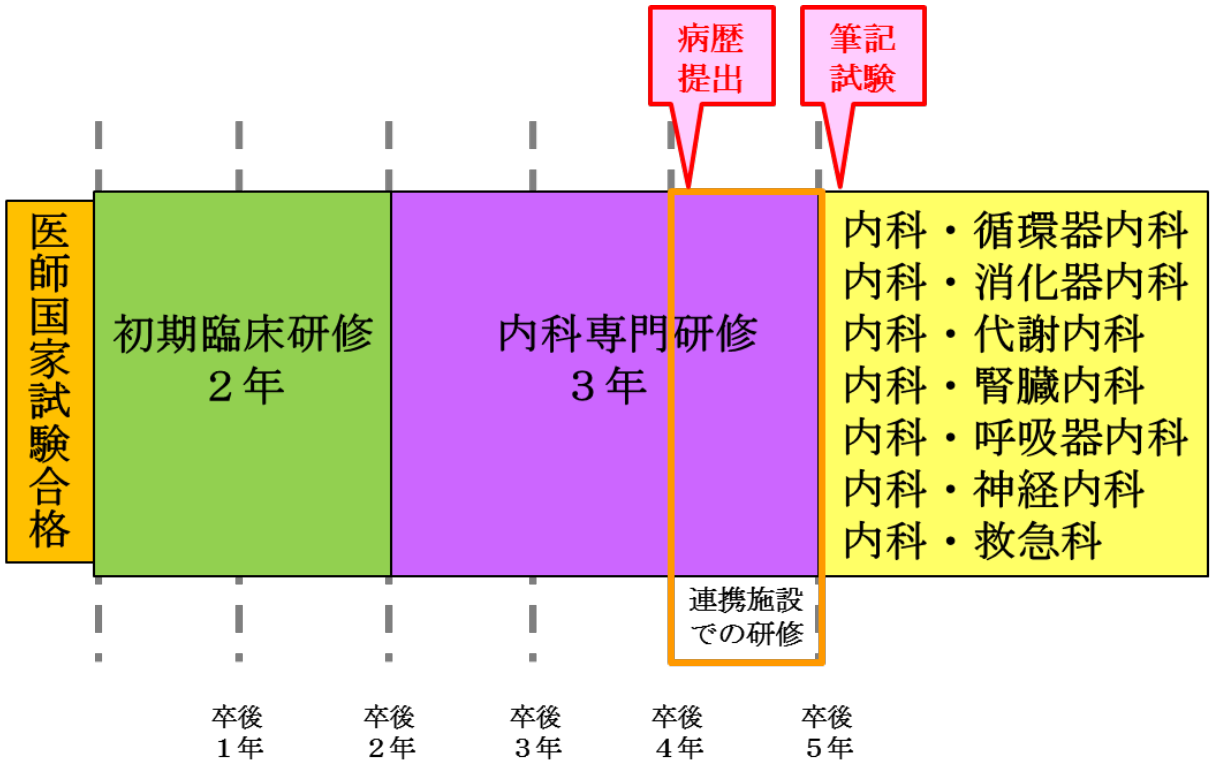


図１．横浜栄共済病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である横浜栄共済病院内科で，専門研修（専攻医）1 年目，2 年目に 2 年間の専門研修を行います．

3）研修施設群の各施設名（P. 19～20「横浜栄共済病院研修施設群」参照）

基幹施設：　横浜栄共済病院

連携施設：

横浜市立大学附属病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
聖マリアンナ医科大学病院	横浜南共済病院
横浜労災病院	横浜市南部病院
茅ヶ崎市立病院	横須賀市立総合医療センター
新百合ヶ丘総合病院	横須賀市立市民病院
大船中央病院	藤沢湘南台病院
額田記念病院立川病院	杏林大学医学部附属病院
町田市民病院	大森赤十字病院
国際医療福祉大学三田病院	国際医療福祉大学成田病院
国際福祉医療大学熱海病院	東京都立広尾病院

4）プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P. 64「横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

指導医師名（作成予定）

5）各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します．病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間，連携施設，特別連携施設で研修をします（図 1）．

6）本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である横浜栄共済病院診療科別診療実績を以下の表に示します．横浜栄共済病院は地域基幹病院であり，コモンディジーズを中心に診療しています．

2025 年度実績	入院延患者数	外来延患者数
消化器内科	22,031	16,037
循環器内科	11,642	12,580
糖尿病・内分泌内科	8,088	16,400
腎臓内科	13,493	14,346
呼吸器内科	7,564	8,820
神経内科	9,939	9,011
救急科	3,592	1,857
合計	76,349	79,051

＊ 代謝，内分泌，血液，膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 4 名に対し十分な症例を経験可能です．
＊ 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.19～20「横浜栄共済病院内科専門研修施設群」参照）．
＊ 剖検体数は 2024 年度 2 体，2025 年度 5 体です．

7）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．

入院患者担当の目安（基幹施設：横浜栄共済病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます．

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます．感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます．

	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目
4 月	循環器	循環器
5 月	循環器	循環器
6 月	消化器	消化器
7 月	消化器	消化器泌
8 月	代謝・内分泌	代謝・内分泌
9 月	代謝・内分泌	代謝・内分泌
10 月	腎臓	腎臓
11 月	腎臓	腎臓
12 月	呼吸器	呼吸器
1 月	呼吸器	呼吸器
2 月	神経	神経
3 月	神経	神経

＊ 1 年目の 4 月に循環器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります．6 月には退院していない循環器領域の患者とともに消化器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります．これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく，主担当医として診療します．

8）自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．必要に応じて臨時に行うことがあります．

評価終了後，1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け，その後の改善を期して最善をつくします．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医からのフィードバックを受け，さらに改善するように最善をつくします．

9）プログラム修了の基準

① 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下の ｉ）～ vi）の修了要件を満たすこと．

ｉ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録済みです（P.43 別表 1「横浜栄共済病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています．

iii）学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります．

iv）JMECC 受講歴が 1 回あります．

v）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります．vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360

度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性があると認められます.

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを横浜栄共済病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し，研修期間修了約 1 か月前に横浜栄共済病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります.

10）専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii）履歴書

iii）横浜栄共済病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の規定期日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します.

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで，日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります.

11）プログラムにおける待遇，ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については，各研修施設での待遇基準に従う（P.19～20「横浜栄共済病院研修施設群」参照）.

12）プログラムの特色

① 本プログラムは，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院である横浜栄共済病院を基幹施設として，神奈川県横浜市南部医療圏，近隣医療圏および東京都，千葉県，静岡県内にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間です.

② 横浜栄共済病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

③ 基幹施設である横浜栄共済病院は，神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院である

とともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

④ 基幹施設である横浜栄共済病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.74 別表 1「横浜栄共済病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．

⑤ 横浜栄共済病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 3 年目の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．

⑥ 基幹施設である横浜栄共済病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（別表 1「横浜栄共済病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）．少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を主担当医として経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．

13）継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します．結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります．

・カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます．

14）逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，横浜栄共済病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

15）研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．

16）その他

特になし．

整備基準 45 に対応

横浜栄共済病院内科専門研修プログラム
指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が横浜栄共済病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.
・担当指導医は，専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
・担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します.
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床教育研修センター（仮称:2026 年度以降設置予定）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.
・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.
・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います.

2) 専門研修の期間

・年次到達目標は，P.74 別表 1「横浜栄共済病院内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について」に示すとおりです.
・担当指導医は，横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）と協働して，3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
・担当指導医は，横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）と協働して，6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
・担当指導医は，横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）と協働して，6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
・担当指導医は，横浜栄共済病院臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降設置予定）と協働して，毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．評価終了後，1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します.

3) 専門研修の期間

・担当指導医はSubspecialtyの上級医と十分なコミュニケーションを取り，研修手帳Web版での専攻医による症例登録の評価を行います.
・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います.
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に研修手帳Web版での当該症例登録の削除，修正などを指導します.

4) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法

・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します.
・担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います.
・専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全29症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します.
・専門研修施設群とは別の内科専門医ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します.
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医と臨床研修センター（仮称：2026年度以降設置予定）はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
・担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します.

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握

・専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，横浜栄共済病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

・必要に応じて，臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い，その結果を基に横浜栄共済病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます．状況によっては，担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います.

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

・横浜栄共済病院給与規定によります.

8） FD 講習の出席義務

・ 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.
・ 指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います.

9） 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

・ 内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し，形成的に指導します.

10） 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

・ 日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

11） その他

・ 特になし.

別表１　　各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 （任意選択含む）	45疾患群 （任意選択含む）	20疾患群	29症例 （外来は最大7）※3
症例数※5		200以上 （外来は最大20）	160以上 （外来は最大16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する．
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる．

別表 2

横浜栄共済病院内科専門研修　週間スケジュール（例）

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">内科 朝カンファレンス〈各診療科（Subspecialty)〉</td><td rowspan="5" colspan="2">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 日当直 / 講習会・学会参加など</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療 / 救命救急センターオンコール</td><td>入院患者診療</td><td>内科合同カンファレンス</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td>内科外来診療（総合）</td><td>内科外来診療〈各診療科（Subspecialty)〉</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査内科検査〈各診療科（Subspecialty)〉</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査内科検査〈各診療科（Subspecialty)〉</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療 / 救命救急センターオンコール</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">内科入院患者カンファレンス〈各診療科（Subspecialty)〉</td><td>入院患者診療</td><td>抄読会</td><td rowspan="2">内科入院患者カンファレンス〈各診療科（Subspecialty)〉</td><td rowspan="2">救命救急センター / 内科外来診療</td></tr>
<tr><td>地域参加型カンファレンスなど</td><td>講習会
CPC など</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など</td></tr>
</table>

★ 横浜栄共済病院内科専門研修プログラム　4. 専門知識・専門技能の習得計画　に従い，内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。

・内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより，担当する業務の曜日，時間帯は調整・変更されます。

・入院患者診療には，内科と各診療科（Subspecialty)などの入院患者の診療を含みます。

・日当直やオンコールなどは，内科もしくは各診療科（Subspecialty)の当番として担当します。

・地域参加型カンファレンス，講習会，CPC，学会などは各々の開催日に参加します。